

◆ 次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

歌集「ひまわり」できたよ

本庄小6年生

秋の情景いきいき112首



佐賀市 佐賀市の本庄小（古賀正道校長）で、地元の自治会長らを講師に招いた短歌の授業があり、6年生の短歌をまとめた歌集「ひまわり」が完成した。それぞれ子どもらしい感性と素直な表現で、「秋」の情景を生き生きと切り取っている。

創作した短歌をまとめた歌集「ひまわり」を手にする6年生と、指導した丹野眞智俊さん（後列右）＝佐賀市の本庄小

自治会長らが講師 コミュニティ活性化事業

短歌の授業は、市の地域コミュニティ活性化モデル事業の一環で、本庄まちづくり協議会の地域教育実践部が企画。本庄自治会長の丹野眞智俊さん（73）らが講師を務めた。

授業では正岡子規や若山牧水、石川啄木の短歌を味わい、作品に込められた思いを学習。「彼岸花」「秋祭り」「芒原」を題詠に、「五七五七七」と指で字数を数えながら短歌に挑戦した。

「キレイだな花火のように咲く花だ 秋の小道に咲く彼岸花（川浪絃明君）」「秋祭りみこしをかつぐ五秒前 はちまき締めて気合を入れる（内山日菜子さん）。歌集には6年生全員の112首が収められた。丹野さんは「躍動感にあふれる作品ばかり。命や社会象に目を向けるきっかけになれば」と話す。完成した歌集は6年生全員に贈られたほか、地元公民館などにも寄贈された。



記事の中の短歌を参考にしてみましょう。

二 上の題詠の中から一つを選んで、あなたも短歌をつくってみましょう。（五七五七七の字数で）

一 この記事の、短歌の授業の題詠（短歌をつくるときのテーマ）は何でしたか？「芒原」以外のあと二つを書きましよう。

◆ 次の新聞記事を読んで、あとの問いに答えましょう。

歌集「ひまわり」できたよ

本庄小6年生



佐賀市 佐賀市の本庄小（古賀正道校長）で、地元の自治会長らを講師に招いた短歌の授業があり、6年生の短歌をまとめた歌集「ひまわり」が完成した。それぞれ子どもらしい感性と素直な表現で、「秋」の情景を生き生きと切り取っている。

秋の情景いきいき112首

創作した短歌をまとめた歌集「ひまわり」を手にする6年生と、指導した丹野眞智俊さん（後列右）＝佐賀市の本庄小

自治会長らが講師 コミュニティ活性化

短歌の授業は、市の地域コミュニティ活性化モデル事業の一環で、本庄まちづくり協議会の地域教育実践部が企画。本庄自治会長の丹野眞智俊さん（73）らが講師役を務めた。
授業では正岡子規や若山牧水、石川啄木の短歌を味わい、作品に込められた思いを学習。「彼岸花」「秋祭り」「芒原」を題詠に、「五七五七七」と指で字数を数えながら短歌に挑戦した。
「キレイだな花火のように咲く花だ 秋の小道に咲く彼岸花（川浪 綾明君）」「秋祭りみこしをかつぐ五秒前 はちまき締めて気合を入れる（内山日菜子さん）。歌集には6年生全員の112首が収められた。丹野さんは「躍動感にあふれる作品ばかり。命や社会象に目を向けるきっかけになれば」と話す。完成した歌集は6年生全員に贈られたほか、地元公民館などにも寄贈された。

（佐賀新聞 平成 23年 10月 14日付 17面）



記事の中の短歌を参考にしてみてください。

一 この記事の、短歌の授業の題詠（短歌をつくるときのテーマ）は何でしたか？「芒原」以外のあと二つを書きましょう。

彼岸（ひがん）花

秋祭り

二 上の題詠の中から一つを選んで、あなたも短歌をつくってみましょう。（五七五七七の字数で）

短歌の例

- 「あぜみちに ひっそり咲いていた ひがん花 見つけたわたしとにらめっこ」
- 「ピーヒャララ ふえの音（ね）ひびくよ 秋祭り はっぴをはおれば お祭り気分」